

第8回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：平成28年8月1日(月) 14:00 - 16:00

2. 場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

松井座長、薬師寺座長代理、市川委員、小野田委員、倉本委員、藤井委員、山崎委員

(2) 政府側(宇宙開発戦略推進事務局)

高田局長、佐伯審議官、行松参事官、高見参事官、松井参事官

(3) 説明者等

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課 堀内課長

JAXA 宇宙科学研究所 常田所長

JAXA 宇宙科学研究所 早川教授

4. 議事要旨

(1) X線天文衛星「ひとみ」の異常事象を受けた対策について

資料に基づき、常田所長から説明を行った。その説明を踏まえ、委員から以下のような意見等があった。(以下、質問・意見等、 : 回答)

過去の不具合をデータベース化することについて、年月が経過するとデータベースの量が膨大になるが、S & MAが担当するのか。

S & MAに加えて、審査委員が過去の経験に基づいて意見を述べることも対策の一つになっている。

準備段階、開発段階、運用後で対策が異なり、リスクの優先順位をどう見極めるのかが重要である。

PMなど担当がリスクに対する感度を持つことが重要であり、小プロジェクトなどを通じて育成していきたい。

今回の事象では、ハードウェアの問題はなかったことが結論だったと認識しているが、今後はハードウェアの問題が起きうるという想定で対策を考えているのか。

ハードウェアについてもJAXAが責任をもって試験で確認することとしている。

PM、PI、SM、S & MAなど、JAXAの人材をどのように配置のか。
JAXA、宇宙科学研究所から適任者を充てることを考えている。

想定外の事態にも対応できるようにしていただきたい。実際の運用中でト

ラブルが起きた時にどのような体制を取るのかについても考えていただきたい。

基本的には衛星の異常診断ツールをつくって、異常の兆候があればアラームを上げるようにする。異常毎に誰に連絡すれば良いかについて整理する。

開発、運用など各段階においてどのように対策を講じていくのかについて整理しておくべき。

本日の議論を踏まえ、小委員会として「JAXAが講じる対策等に関するこれまでの議論」をまとめるとともに、これまで指摘した内容を含めて、今後JAXAにおいて適切な対策を実施することが可能であると判断した。

(2) 後継機の開発について
議論の概要は以下のとおり。

他プロジェクトの影響については、文部科学省からプロジェクトの状況によって必要に応じて細かく予算の見直しを検討する旨説明があり、他プロジェクトへの影響は少ないことについて確認した。

科学的コミュニティの一定の理解・支持については、JAXAから、科学コミュニティの支持の前提となる条件を満たす見通しである旨説明があり、コミュニティの理解・支持が得られる見通しがあることについても合意した。

米国の協力への懸念については、JAXAからNASAの前向きな協力姿勢がある旨の説明があり、協力・支援の見通しがあることについて合意が得られた。

今後、同様の異常事象が発生した場合には、個別の事態に応じて判断すべきであるとのことで合意が得られた。

本日の議論を踏まえ、小委員会として「後継機の開発に関するこれまでの議論」をまとめるとともに、後継機の開発を目指した作業を進めることは適切であると判断した。

以上